

1. 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	4092600149		
法人名	社会福祉法人 瑞豊会		
事業所名	グループホーム楽生縁		
所在地	福岡県行橋市大字東徳永167-6 (電話) 0930-26-1022		
自己評価作成日	令和 4 年 1 月 17 日	評価結果確定日	令和 4 年 3 月 24 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

四季折々の行事や景色を楽しんだり、行事に合わせた食事やおやつを提供を行っています。健康面では看護師は常駐していませんが、日々の健康管理や服薬管理を行い、ご利用様が、体調不良と思われる際はONコールで訪問看護の看護師が対応できる仕組みになっています。また、連携する整形病院の理学療法士の指導の下、上下肢の筋力や体感機能の向上が図れるようにリハビリや体操に取り組んでいます。

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	http://www.kai gokensaku.jp/
-------------	---

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	社会福祉法人 福岡県社会福祉協議会		
所在地	福岡県春日市原町3-1-7		
訪問調査日	令和 4 年 2 月 15 日		

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

事業所は郊外にあり、周辺地域は果樹園栽培など多くの畑もあり自然豊かで、木造平屋造りで2つのユニットからなるホームである。敷地内はケアハウスや地域交流センターなどが複合的に立地しており、相互に交流を図っている。地域の中には病院も多く、必要に応じて連携し、本人や家族の安心の一つとなっている。事業所の理念である「笑顔・元気・感謝」を大切に、職員は利用者が四季折々に季節を感じながらその時々を笑顔で元気に過ごせるように思いを込めて、介護サービスの提供を行っている。ホーム内は大きな窓から日が差し、職員の優しさも感じられ、落ち着いた雰囲気のあるホームである。

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、「笑顔・元気・感謝」と基本方針を見やすい場所に掲示し、毎日朝礼時に、唱和している。職員は笑顔を大切に利用者に寄り添い、利用者が元気に笑顔で暮らせるように支援に努めている。	法人理念である「笑顔・元気・感謝」と地域密着の視点を含んだ3つの基本方針が掲げられている。玄関など見やすい場所に掲示し、職員は朝礼時に唱和している。また、利用者が四季折々の行事を通じて季節を感じながら笑顔で暮らしてほしいとの思いを込めて介護サービスの提供に努めている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のケアハウスで行われる合同の敬老会、クリスマス会、もちつき等の行事や活動に、利用者と職員が参加し、地域の方やボランティア、幼稚園児、保育園児との交流を楽しんでいる。また地域交流センター開放する等、地域との繋がりを大切に取組んでいる。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。	敷地内に地域交流センターがあるため、日常的に地域住民との交流が図られている。また、事業所主催のイベントに地域のボランティアや幼稚園児を招いたり、中学校の職場体験や専門学校の実習受け入れなどがあり、利用者も地域とのつながりを持って暮らされている。現在は、コロナ禍のため中止となっているが、終息後は再開する予定である。	
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月毎に開催し、家族や地域代表、行政、地域包括支援センター職員の参加を得ている。それぞれの立場からの質問や意見、情報提供等、活発な意見交換会となっている。出された意見や要望は職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。	2か月に1回開催され、利用者や家族、行政担当者、地域包括支援センター職員、民生委員が参加され、日頃の介護内容など報告し、様々な意見交換を行っている。コロナ禍のため、現在は、中止が続いており、構成員との連絡もできていない状況である。	文書やリモートなど活用し、地域との連携が確保され、かつ地域に開かれたサービスにすることで、サービスの質を確保・向上を図ることを期待する。
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	管理者は、事故等の報告は行政担当窓口に出向いて行っている。行政主催の研修会への参加や地域包括支援センター職員による月1回の勉強会等、行政と連携を図っている。また、2ヶ月毎の運営推進会議に、行政、包括支援センターの両方から参加があり、情報交換しながら協力関係を築いている。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。	日頃から管理者、計画作成担当者は窓口へ出向くようにしている。特に事故報告書などは持参して助言を受けるようにしている。コロナ禍前は行政主催の勉強会に参加するなどしていた。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議や毎日の申し送り時に気づいたことを話し合い、意識付けを行っている。言葉や薬の抑制も含め、具体的な禁止行為の事例を挙げて検討し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。	身体拘束については原則行わない方針で取り組まれている。2か月に1回、法人全体で身体拘束廃止委員会を開催している。参加職員はミーティングにてフィードバックしている。玄関にはチャイムがあり利用者の外出時には職員が付き添うようにしている。リビングから庭への出入りは自由にされている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされないよう注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行い、職員と情報の共有をし防止に努める。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の制度を正しく理解できるよう、勉強会を実施し、共通理解に努めている。制度に関する資料を用意し、必要時には、申請手続きの説明を行い、制度を活用できる支援体制を整えている。現在、制度活用の利用者はいない。	権利擁護の制度については、契約時や相談時に説明を行っている。職員は外部の研修に参加し、伝達研修を行う等、制度の理解を深めている。	
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ家族の意向を確認した。入居後の意向も聞き、家族に安心してもらえるように配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、面会や運営推進会議の時、または電話にて、意見や要望を聴いている。利用者については、日常の暮らしの中で、意見を言いやすい環境を作り、傾聴するように心掛けている。	日常的に利用者の思いを汲み取るようにしており、日々の散歩やおやつなどの要望に対応している。家族の意見等は来所時に聞くように心がけている。コロナ禍においては毎月、家族に写真付き手紙を送付している。外出機会が少なくなったことから「運動したい」との要望に対し、個別リハビリが開始されるなど意見を取り入れている。	
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、パート職員も含め、夜勤者以外全員参加の職員会議を開催している。職員からは、意見、要望が活発に出され、出された意見に関しては、できるだけ反映するように努めている。やむを得ず欠席した職員には議事録を回覧し、サインを義務付け、情報を共有している。	管理者は日頃のミーティングや業務の中で職員へ声かけし、意見や提案などを聞くようにしている。年2回、個別面談の機会もあり、職員の意見を反映するようにしている。	
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し頑張っている職員はきちんと評価している。また、各自の勤務条件は変更希望があれば随時、話を聴いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、資格の制限はない。園芸やおやつ作り、室内の装飾等、職員がそれぞれ得意分野を十分に発揮できる環境を整えている。 また、希望休についても月2回以外にも相談の上、出来るだけ休みたい時に休めるよう配慮している。	性別・年齢を問わず、幅広い年代の職員を採用している。資格取得について、費用などの援助があり、また、研修会やミーティング内で学ぶ機会を設ける等、職員がスキルアップを図れるよう配慮している。	
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳や権利を守る介護サービスが出来ているか、職員会議や申し送り時に確認し、気づいた時には注意し合っている。 職員は、言葉かけや対応に気をつけ、人生の先輩への敬う気持ちを忘れずにツネに意識しながら、日々の業務に取り組んでいる。	人権や職業倫理について学ぶ機会を設け、参加した職員は伝達研修を行っている。日常的に職員同士が接遇について気を配るように声を掛け合っている。	
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。法人内での研修を実地しすこずつ知識を増やしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様であり、また、家族であることを意識し日々の支援にあたっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に立ち、今までの関係を崩さないように、細かい事も連絡し不安にならないように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域から入居の利用者が多く、家族や親戚、友人、知人の面会が多い。家族対応で馴染みのかかりつけ医の受診や理・美容院を利用する等、利用者が長年築いてきた人間関係や、馴染みの地域との関わりが継続出来るように支援している。併設ケアハウスやデイサービスの利用者との交流もある。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。	入居時に馴染みの関係についてアセスメントを行い、入居後も知人などの関係が途絶えないようにお歳暮のやり取りなど支援している。また、馴染みの理美容院を希望されている方等には感染対策を行い、関係継続に向けて支援している。	
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の関係をより円滑にし日暮の日常が楽しく過ごせるように努める。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればしっかり話を聞ける体制を整えている。法人内に他の介護事業所を揃えている為、最後まで支援できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを取る中で、思いや意向を察知し、把握するよう努めている。困難な場合には、家族に相談したり、様子から気持ちを汲み取ったりしながら、カンファレンスの中で、本人本位に検討している。	日常の会話等から利用者・家族からの思いや希望を把握し、推進会議や職員ミーティングにより、職員間で共有している。意思疎通が困難な利用者には、家族等から情報を得るようにしている。	
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き取り、全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医に相談し、現状にあった介護計画の作成、実践に努めている。	本人や家族からの意向や希望を聴き取り、毎月開催される職員ミーティングで協議し、介護計画を作成している。	
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夜勤報告、日勤帯での状況や受診時の対応等、業務日誌に記入し見直し等に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		

項目番号		項目	自己評価	外部評価	
自己	外部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	きちんと把握はできていない。本人の健康管理や安心して過ごせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と入居時に話し合い、ほとんど近隣の病院への受診を希望している。受診は家族、または、職員が対応し、報告を密に行い、医療情報の共有に努めている。緊急時には、救急搬送で対応し、法人内の訪問看護の利用と併わせ、24時間安心出来る医療体制が整っている。	入居前からのかかりつけ医に家族が付き添い受診するのが基本であるが、家族が付き添えない時は、ホームの職員が付き添って受診を支援し、家族に受診後の報告がなされている。	
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。週に1回ホーム内で健康管理を行う。入居者に異常や異変があればすぐに連絡しホームに来てくれ状態観察をしてくれる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係をつくるまではできていない。入院後も面会や連絡をし状態の変化はないか確認はしている。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームで出来得る支援について、利用者や家族に説明し、看取りは行わない方針を伝え、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、病院や他施設への転居を含め、本人にとって最善の環境で終末期を過ごせるよう支援に努めている。	重度化した場合における対応及び看取り介護や支援については、事前に家族との協議がなされており、終末期などの際、対応方針は決められているものの、具体的に明文化までがなされていない。利用者や家族の意向を大事にしながら、家族と話し合い、職員全員で情報の共有がなされている。	早い段階から家族に重度化や終末期のあり方を説明できるように、対応方針について明文化されることを期待する。
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修でAEDの使い方を学ぶ。また、職員会議等で急変時の行動について話し合いスムーズな対応を心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を昼夜を想定して年2回実施し、消防署の協力と参加を得ている。非常災害時に、併設事業所の職員が、出火場所によって駆けつける体制が確立している。また、通報装置や消火器の使い方の確認や利用者を安全に避難場所に誘導し、二次災害が起こらないように見守りが出来る体制を目指している。	マニュアルの作成や避難訓練は毎年2回行われている。また、非常時の食料や飲料は被災などを想定し3日以上以上の備蓄がなされている。コロナ禍のため、毎年グループホーム単独での避難訓練などは行われているものの、訓練前の近隣に対しての、事前周知や呼びかけがなされていない。	非常時は地域住民の協力が得られるように、近隣の住民に訓練参加の協力を呼び掛けることが望まれる。
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重する事と、プライバシーを大切にすることに対応している。その人に合った声かけや言葉を選び、プライドを傷つけないような対応を心掛けている。利用者の近くで、職員同士が利用者についての話をしない等、気になる事は注意し合い、改善に努めている。	パット、おむつ交換はドアを閉めて行うなどを基本に、誇りやプライバシーを損ねないよう配慮がなされている。また、失禁などに対しても、さりげない支援がなされている。	
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言える方の思いは尊重し、言えない方は職員の声かけで表現できるように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先し、入居者の都合で過ごせるように努める。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを整えるように努める。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房からの配食による食事を盛り付け、提供している。炊飯は3食ホームで行い、利用者一人ひとりの状態に応じて刻みを行う等、それぞれに合った形態で提供している。月1回のおやつづくり等、利用者の力を活かしながら、作って食べる楽しみを味わえるよう支援している。	同一法人に所属する栄養士が三食とも栄養バランスの良い献立を立てている。また、配膳、下膳、食器洗いなどは一部の利用者によってなされている。管理者や職員は毎日同じテーブルで食べている。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し状態を観察している。いつもと違えば、看護師に報告し指示を仰ぐ。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している方は、診ていただいている。また、朝食後、昼食後、夕食後と1日3回口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つように努める。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛け、誘導を行い、重度の利用者も、日中は2人介助でトイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯も、起きて来られる方は誘導し、その方の心身の状況に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。	排尿リズムを一覧表で把握し、タイミングをみて声掛け、誘導がなされている。排尿チェック表から排尿量を算出し、それに見合うパット類の調整がなされている。	
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便した際には排便チェック表に記入し確認している。排便ができていなければ看護師に報告し服薬等の対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組んでいる。ユニット1に機械浴を設置している事から、2ユニットの利用者全員をユニット2に集め、安心、安全の入浴支援を行っている。	毎週2回の入浴を基本としているが、毎日準備をしており、希望に応じて対応している。入浴を望まない利用者に対しては、職員や時間を変える等、様々な声かけ、誘導がなされている。	
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとり就寝時間が違い、その人のペースに合わせて就寝してもらおう。不眠にならないように職員が声かけ等でフォローするように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は看護師に一任しているが看護師より薬の内容を教えてもらい、服薬後の反応は随時報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割等はできていないが、気分転換ができ、同じ毎日にならないように努める。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防のため、外出の支援が難しい状況であるが、初詣には全員で出かけ、近所の神社にお参りをした。園芸の得意な職員が、玄関前にプランターにたくさんの花を植え、利用者と一緒に花を眺めながら外気浴を楽しむ等、少しでも戸外に出る事ができるよう、支援している。	天気や利用者の体調や希望に応じて、初詣や買い物、散歩等の外出支援がなされ、家族が道の駅やファミレスなどに同行する機会もある。また、ドライブや外食は年に3、4回程度行われている。	
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事があるときは利用者が自分で携帯電話を使用し家族と話し気分を落ち着かせている。また、家族から電話がかかってきた際に本人に変わってお話する事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は採光や温度・湿度・換気・清掃に注意し、清潔で過ごしやすい共用空間である。また、玄関前のプランターに花を植え、季節感を大切にしている。リビングルームは、広くて明るい為、両ユニット合同で体操を行う等、利用者同士が行き来きしながら楽しく過ごしている。室内には、利用者の笑顔の写真季節毎の飾り物を掲示し、生活感のある家庭的な雰囲気である。	リビングは大きな窓から自然光が入り、明るい雰囲気である。季節によって飾りつけを変えたりと、家庭的で居心地の良い空間づくりに向けて工夫している。	

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるような配置には配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での転倒を防ぐため、大きな者はテレビ程度にしてもらい、クローゼットに入る程度の持ち物の持ち込みをお願いしている。利用者の動線に配慮しながら配置を考え、安心、安全に過ごせるよう、家族と相談しながら支援に取り組んでいる。	居室は家族や知人、兄弟の写真が飾られる等、使い慣れた布団や筆筒などが持ち込まれ、利用者の個性が感じられる空間となっている。	
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、機能が低下しないように生活できるように支援する。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：25, 26, 27)		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2/3くらいの
			○	③利用者の1/3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：20, 40)	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：40)	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目：38, 39)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：51)		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：32, 33)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 (参考項目：30)		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2/3くらいが
				③利用者の1/3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		(該当する箇所を○印で囲むこと)			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 21)	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2/3くらいと		
				③家族の1/3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：2, 22)	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2/3くらいが		
				③職員の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2/3くらいが		
				③利用者の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2/3くらいが		
				③家族等の1/3くらいが		
				④ほとんどいない		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【I 理念に基づく運営】					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	法人理念、「笑顔・元気・感謝」と基本方針を見やすい場所に掲示し、毎日朝礼時に、唱和している。職員は笑顔を大切に利用者に寄り添い、利用者が元気に笑顔で暮らせるように支援に努めている。		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	同一敷地内のケアハウスで行われる合同の敬老会、クリスマス会、もちつき等の行事や活動に、利用者と職員が参加し、地域の方やボランティア、幼稚園児、保育園児との交流を楽しんでいる。また地域交流センター開放する等、地域との繋がりを大切に取り組んでいる。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。		
3	—	○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2カ月毎に開催し、家族や地域代表、行政、地域包括支援センター職員の参加を得ている。それぞれの立場からの質問や意見、情報提供等、活発な意見交換会となっている。出された意見や要望は職員間で検討し、サービスの向上に活かしている。現在は新型コロナウイルスの感染予防により中止としている。		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	管理者は、事故等の報告は行政担当窓口に出向いて行っている。行政主催の研修会への参加や地域包括支援センター職員による月1回の勉強会等、行政と連携を図っている。また、2ヶ月毎の運営推進会議に、行政、包括支援センターの両方から参加があり、情報交換しながら協力関係を築いている。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束については、職員会議や毎日の申し送り時に気づいたことを話し合い、意識付けを行っている。言葉や薬の抑制も含め、具体的な禁止行為の事例を挙げて検討し、身体拘束をしない介護サービスの提供に取り組んでいる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	—	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	法人内で勉強会を行い、職員と情報の共有をし防止に努める。		
8	6	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	権利擁護の制度を正しく理解できるよう、勉強会を実施し、共通理解に努めている。制度に関する資料を用意し、必要時には、申請手続きの説明を行い、制度を活用できる支援体制を整えている。現在、制度活用の利用者はいない。		
9	—	○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約または改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	時間をかけ家族の意向を確認した。入居後の意向も聞き、家族に安心してもらえるように配慮している。		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族には、面会や運営推進会議の時、または電話にて、意見や要望を聴いている。利用者については、日常の暮らしの中で、意見を言いやすい環境を作り、傾聴するように心掛けている。		
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回、パート職員も含め、夜勤者以外全員参加の職員会議を開催している。職員からは、意見、要望が活発に出され、出された意見に関しては、できるだけ反映するように努めている。やむを得ず欠席した職員には議事録を回覧し、サインを義務付け、情報を共有している。		
12	—	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	人事考課制度を利用し頑張っている職員はきちんと評価している。また、各自の勤務条件は変更希望があれば随時、話を聴いている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
13	9	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。 また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮していき生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集、採用にあたっては、年齢、性別、資格の制限はない。園芸やおやつ作り、室内の装飾等、職員がそれぞれ得意分野を十分に発揮できる環境を整えている。 また、希望休についても月2回以外にも相談の上、出来るだけ休みたい時に休めるよう配慮している。		
14	10	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、利用者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	利用者の尊厳や権利を守る介護サービスが出来ているか、職員会議や申し送り時に確認し、気づいた時には注意し合っている。 職員は、言葉かけや対応に気をつけ、人生の先輩への敬う気持ちを忘れずにツネに意識しながら、日々の業務に取り組んでいる。		
15	—	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。法人内での研修を実地しすこしずつ知識を増やしている。		
16	—	○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在は新型コロナウイルスの感染予防により出来ていない。		
【Ⅱ 安心と信頼に向けた関係づくりと支援】					
17	—	○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		
18	—	○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
19	—	○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	契約時に家族と本人と話し、困っている事、不安な事、要望を聞き職員に連絡し自用法の共有をしている。		
20	—	○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	お客様であり、また、家族であることを意識し日々の支援にあたっている。		
21	—	○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の間に立ち、今までの関係を崩さないように、細かい事も連絡し不安にならないように努める。		
22	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	地域から入居の利用者が多く、家族や親戚、友人、知人の面会が多い。家族対応で馴染みのかかりつけ医の受診や理・美容院を利用する等、利用者が長年築いてきた人間関係や、馴染みの地域との関わりが継続出来るように支援している。併設ケアハウスやデイサービスの利用者との交流もある。ただし、現在は新型コロナウイルスの感染予防により一部制限している。		
23	—	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	職員が間に入り利用者同士の関係をより円滑にし日暮の日常が楽しく過ごせるように努める。		
24	—	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	相談があればしっかり話を聞ける体制を整えている。法人内に他の介護事業所を揃えている為、最後まで支援できる。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
【Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント】					
25	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	日々の会話やコミュニケーションを取る中で、思いや意向を察知し、把握するよう努めている。困難な場合には、家族に相談したり、様子から気持ちを汲み取ったりしながら、カンファレンスの中で、本人本位に検討している。		
26	—	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
27	—	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		
28	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族の意向を聴き取り、全職員で話し合い、利用者本位の介護計画を6ヶ月毎に作成している。また、利用者の状態変化に合わせて家族や主治医に相談し、現状にあった介護計画の作成、実践に努めている。		
29	—	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	朝の申し送り、夜勤報告、日勤帯での状況や受診時の対応等、業務日誌に記入し見直し等に活かしている。		
30	—	○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居前に情報をもらいしっかり把握する。また、入居時にも家族から聴き取りを行い、できるだけ馴染みのある暮らし方を変えないように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
31	—	○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	きちんと把握はできていない。本人の健康管理や安心して過ごせるように努めている。		
32	14	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者や家族と入居時に話し合い、ほとんど近隣の病院への受診を希望している。受診は家族、または、職員が対応し、報告を密に行い、医療情報の共有に努めている。緊急時には、救急搬送で対応し、法人内の訪問看護の利用と併わせ、24時間安心出来る医療体制が整っている。		
33	—	○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護と契約している。週に1回ホーム内で健康管理を行う。入居者に異常や異変があればすぐに連絡しホームに来てくれ状態観察をしてくれる。		
34	—	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている	関係をつくるまでは行っていない。入院後も面会や連絡をし状態の変化はないか確認している。		
35	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に、ホームで出来得る支援について、利用者や家族に説明し、看取りは行わない方針を伝え、理解を得ている。利用者の重度化に伴い、家族や主治医と話し合い、病院や他施設への転居を含め、本人にとって最善の環境で終末期を過ごせるよう支援に努めている。		
36	—	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	法人内の研修でAEDの使い方を学ぶ。また、職員会議等で急変時の行動について話し合いムズナ対応を心掛ける。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	法人全体の防災訓練を昼夜を想定して年2回実施し、消防署の協力と参加を得ている。非常災害時に、併設事業所の職員が、出火場所によって駆けつける体制が確立している。また、通報装置や消火器の使い方の確認や利用者を安全に避難場所に誘導し、二次災害が起こらないように見守りが出来る体制を目指している。		
【IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援】					
38	17	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	利用者一人ひとりを尊重する事と、プライバシーを大切にすることに対応している。その人に合った声かけや言葉を選び、プライドを傷つけないような対応を心掛けている。利用者の近くで、職員同士が利用者についての話をしない等、気になる事は注意し合い、改善に努めている。		
39	—	○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の希望が言える方の思いは尊重し、言えない方は職員の声かけで表現できるように努める。		
40	—	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	個人のペースを優先し、入居者の都合で過ごせるように努める。		
41	—	○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	清潔感のある身だしなみを整えるように努める。		
42	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	併設施設の厨房からの配食による食事を盛り付け、提供している。炊飯は3食ホームで行い、利用者一人ひとりの状態に応じて刻みを行う等、それぞれに合った形態で提供している。月1回のおやつづくり等、利用者の力を活かしながら、作って食べる楽しみを味わえるよう支援している。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	—	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事の摂取量、水分の摂取量を把握し状態を観察している。いつもと違えば、看護師に報告し指示を仰ぐ。		
44	—	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	訪問歯科を利用している方は、診ていただいている。また、朝食後、昼食後、夕食後と1日3回口腔ケアを行い口腔内を清潔に保つように努める。		
45	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	職員は利用者の生活習慣や排泄パターンを把握し、タイミングを見ながら声掛け、誘導を行い、重度の利用者も、日中は2人介助でトイレ誘導を行い、出来る限りトイレで排泄できるよう支援している。夜間帯も、起きて来られる方は誘導し、その方の心身の状況に合わせたトイレ誘導、介助を行っている。		
46	—	○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便した際には排便チェック表に記入し確認している。排便ができていなければ看護師に報告し服薬等の対応をしている。		
47	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった入浴の支援をしている	週2回の入浴を基本とし、利用者の希望や体調に配慮しながら入浴支援に取り組んでいる。ユニット1に機械浴を設置している事から、2ユニットの利用者全員をユニット2に集め、安心、安全の入浴支援を行っている。		
48	—	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	1人ひとり就寝時間が違い、その人のペースに合わせて就寝してもらおう。不眠にならないように職員が声かけ等でフォローするように努める。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	—	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	管理は看護師に一任しているが看護師より薬の内容を教えてもらい、服薬後の反応は随時報告している。		
50	—	○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や力を活かした役割等はできていないが、気分転換ができ、同じ毎日にならないように努める。		
51	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	新型コロナウイルスの感染予防のため、外出の支援が難しい状況であるが、初詣には全員で出かけ、近所の神社にお参りをした。園芸の得意な職員が、玄関前にプランターにたくさんの花を植え、利用者と一緒に花を眺めながら外気浴を楽しむ等、少しでも戸外に出る事ができるよう、支援している。		
52	—	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在はお金の所持はしていない。		
53	—	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	用事があるときは利用者が自分で携帯電話を使用し家族と話し気分を落ち着かせている。また、家族から電話がかかってきた際に本人に変わってお話する事もある。		
54	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内は採光や温度・湿度・換気・清掃に注意し、清潔で過ごしやすい共用空間である。また、玄関前のプランターに花を植え、季節感を大切にしている。リビングルームは、広くて明るい為、両ユニット合同で体操を行う等、利用者同士が行き来きしながら楽しく過ごしている。室内には、利用者の笑顔の写真季節毎の飾り物を掲示し、生活感のある家庭的な雰囲気である。		

項目番号		項目	自己評価 実践状況	外部評価	
自己	外部			実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
55	—	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	気の合った利用者同士で過ごせるような配置には配慮している。		
56	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのもをを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内での転倒を防ぐため、大きな者はテレビ程度にしてもらい、クローゼットに入る程度の持ち物の持ち込みをお願いしている。利用者の動線に配慮しながら配置を考え、安心、安全に過ごせるよう、家族と相談しながら支援に取り組んでいる。		
57	—	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能やわかる力を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	残存機能を活かし、機能が低下しないように生活できるように支援する。		

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果	
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）	
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）				
58	—	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 （参考項目：25, 26, 27）		①ほぼ全ての利用者の
				②利用者の2／3くらいの
			○	③利用者の1／3くらいの
				④ほとんど掴んでいない
59	—	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 （参考項目：20, 40）	○	①毎日ある
				②数日に1回程度ある
				③たまにある
				④ほとんどない
60	—	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 （参考項目：40）	○	①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
61	—	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている （参考項目：38, 39）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
62	—	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている （参考項目：51）		①ほぼ全ての利用者が
				②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
			○	④ほとんどいない
63	—	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 （参考項目：32, 33）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんどいない
64	—	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている。 （参考項目：30）		①ほぼ全ての利用者が
			○	②利用者の2／3くらいが
				③利用者の1／3くらいが
				④ほとんど掴んでいない

項目番号		項 目	取 り 組 み の 成 果			
自己	外部		（該当する箇所を○印で囲むこと）			
V サービスの成果に関する項目（アウトカム項目）						
65	—	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 （参考項目：9, 10, 21）	○	①ほぼ全ての家族と		
				②家族の2／3くらいと		
				③家族の1／3くらいと		
				④ほとんどできていない		
66	—	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 （参考項目：2, 22）	○	①ほぼ毎日のようにある		
				②数日に1回程度ある		
				③たまにある		
				④ほとんどない		
67	—	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 （参考項目：4）	○	①大いに増えている		
				②少しずつ増えている		
				③あまり増えていない		
				④全くいない		
68	—	職員は、生き生きと働いている。 （参考項目：11, 12）	○	①ほぼ全ての職員が		
				②職員の2／3くらいが		
				③職員の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
69	—	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての利用者が		
				②利用者の2／3くらいが		
				③利用者の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		
70	—	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	①ほぼ全ての家族等が		
				②家族等の2／3くらいが		
				③家族等の1／3くらいが		
				④ほとんどいない		